

市町村名：名古屋市、尾張旭市、長久手市、瀬戸市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

名古屋市藤が丘駅周辺、尾張旭市本地ヶ原地域、長久手市岩作地域・愛知医科大学病院周辺、瀬戸市尾張瀬戸駅周辺・本地地域

(2) 利用数（現在：令和6年度（見込））

101,288人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

当該路線は鉄道駅、総合病院を結ぶ路線であり、沿線住民の鉄道駅への接続及び通院や買い物の足として利用されています。

(4) 路線の必要性

藤が丘駅（名古屋市）と尾張瀬戸駅（瀬戸市）を結ぶとともに、総合病院（愛知医科大学病院）で他の幹線系統やコミュニティバス等と接続しており、地域住民の日常生活における移動手段を確保するため必要不可欠である。

2. 輸送サービスの形態

民間事業者による乗合バス（路線定期運行）

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	関係市町村キロ程	1日当たり 計画運行回 数	運行時間帯	備考
		起点	主な経由地	終点					
計画 (R6.10)	本地ヶ原	藤が丘	愛知医科大学病院	瀬戸駅前	13.6	名古屋市 往 2.6	8.1	7:55 ～ 16:24	
						名古屋市 復 2.6			
						尾張旭市 往 3.4			
					13.7	尾張旭市 復 3.5			
						長久手市 往 2.1			
						長久手市 復 2.1			
						瀬戸市 往 5.5			
						瀬戸市 復 5.5			

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

名鉄バス株式会社
・当該エリアを運行する既存のバス会社であり、沿線状況を熟知しているため。
・駅周辺に停留所を有しており、安全で円滑な運行が可能になるため。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	計画 平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量(人) 1日当たり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 《A×B》	キロ当たり 経常費用 (円銭) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円銭) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F 《C×E》	経常収益 (千円) G 《D×E》	欠損見込額 (千円) H 《F-G》	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (R6.10)	本地ヶ原	8.1	4.6	37.2	407.92	284.54	81,428.5	33,216	23,169	10,047	4,341.0	4,341.0	0.0	1,365.0
	(現行からの変更点)													

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	6年度(見込)	7年度	8年度	9年度
年間利用者数(人)	101,288	103,125	104,967	106,810
※上記目標設定の考え方	収支改善率1%に必要な年間利用者数を目標として設定			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
7年度 8年度 9年度	・GTFS化を継続し、google及び交通系経路検索サイトからの路線の案内をする ・路線マップ・時刻表の配布、広報紙やホームページ等を活用したPR ・イベントに出展してバスへのふれあいを通じて利用促進に繋げる ・利用実態に応じたダイヤの見直し ・バスの系統をナンバリングし、路線図にも系統表示をして、利用者が分かりやすいようにする ・自治体と事業者が連携して高齢者向けフリーパスをPRする ・め～バス日和(高齢者フリーパス購入者向け情報誌)の発行により、バスの利用でのお出かけを促進する ・発売窓口に行く必要がなく、1日乗車券等を車内でmanacaに付与できる次世代運賃箱が導入され、旅客サービス及び販路拡大に繋がる取り組みを行う

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
7年度 8年度 9年度	コミュニティバス路線と結節し、鉄道駅及び総合病院を結ぶ路線が維持されることにより、地域住民の広域移動や通院等の日常生活における移動手段が確保される。

(4) 令和5年度事業評価結果を踏まえた取組等

・ポケット時刻表、バスマップの作成 ・ホームページ、携帯、スマートフォンでの時刻検索システム、パスロケーションシステムの提供

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 7年度の生産性向上の取組

	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	名古屋市	市町村名	尾張旭市	市町村名	長久手市
取組 経費削減策等	高齢者向けフリーパス（ゴールドパス・シルバーパス）のPRを継続実施し、昼間帯および土曜・休日の利用促進を図る。市が開催するイベント等に参加し、車両展示や乗り方教室を行うことによりパス利用をPRする。		交通エコライフの取組みを進め、公共交通利用促進を実施する。		・本市営バスマップに他の事業者路線の停留所を記載するとともに、交通結節点においては乗換案内図を掲載し、周知を図る。 ・市広報誌、HP及びイベント等で公共交通の利用促進及び啓発を図る。		・市民や交通事業者などと協力し、イベントをはじめとした公共交通利用促進事業を実施する。 ・公共交通マップ、HP、広報誌等を活用した公共交通利用促進及び啓発を図る。
スケジュール等	随時	—		通年		随時	

(2) 定量的な効果目標

指標	収支改善率 1 %
----	-----------

【参考】経常収支率

3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
45.80%	58.46%	69.26%		